

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473600417
法人名	社会福祉法人 誠幸会
事業所名	グループホーム 泉の郷
訪問調査日	平成21年3月4日
評価確定日	平成21年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1473600417
法人名	社会福祉法人 誠幸会
事業所名	グループホーム 泉の郷
所在地	245-0018 横浜市泉区上飯田町1221 (電話)045-800-6171

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年3月4日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より(平成21年 2月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 10月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤	15 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 21 人

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2階建ての	1階	～ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59～60,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1000 円	

(4)利用者の概要(2月18日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	11 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 83.6 歳	最低	57 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	湘南御茶ノ水クリニック、南新宿診療室、石川歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この泉の郷は横浜市の北部、いずみ中央駅から徒歩で15～6分、徐々に新興住宅地として開発が進んでいるのところにあり。経営母体は社会福祉法人 誠幸会で、社員が登録を含めると400名余と各種福祉施設(特養、ケアハウス、デイサービス等28事業)のネットワークを持つ大きなグループであり、泉の郷は平成13年10月、グループホームでは一番最初に設立された。本部のある特養泉の郷、ケアハウス・フォンス、及びグループホーム泉の郷上飯田は至近距離にあり、本部に居宅介護、訪問介護、デイサービス等が併設されており、利用しながら自然な形での入居も可能である。グループ内のPCネットワーク、研修体制などについて共通に取り組める強みをもっている。PCネットワークでは、共通のソフトを活用し情報の一体化が図られていて、情報の守秘性のため、他施設の情報は見られないが、本部では双方向で伝達が可能であり、本部からの情報はパスワードを持った職員なら誰でも検索可能であり、活用されている。職員の研修については本部として研修計画を持っている。医療連携体制についてはホーム長が看護師なので認可を受けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回は誠幸会全体としても、グループホーム泉の郷としても職員の質の向上に取り組んだ。特に重度化が進む中で、介護職に於いても医学知識の向上が不可欠であり、本部が中心となって年8回の医務研修を実施した。さらにこの研修内容に沿ってホーム内でOJTで研修をフォローした。この他に外部の「嚙下」に関する研修を受けさせて、内部で伝達研修を実施した。取り上げた理由は嚙下不足で炎症を起こし易い利用者さんへの対応が目的で、研修が非常に役立った。これからも職員の質の向上に努める。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は各ユニットで評価をまとめ、その評価をホームとしてまとめて作成した。評価機関への提出と同時に一般職員に周知した。評価のプロセスに於ける気付きや評価の指摘事項については改善シートを作成し、問題点の洗い出しと改善策の策定実施を行うことにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年の運営推進会議は泉区方式(ブロック別)で3ヶ月に1回の割合で実施してきたが、今年度からは事業所単位でも行うこととなった。ブロック会議としては上飯田町全体(7経営主体の9つのグループホーム)で行い、事業所会議としては同じ誠幸会が経営するグループホーム泉の郷上飯田町及び近くのグループホーム小さい手を加えた中村町内会のを開催している。メンバーは自治会長、自治副会長、ご家族、事務局で、オブザーバーとして泉区サービス課長、地域包括支援センターが加わって行っている。今回は4月の介護保険法改訂の情報なども伝えてもらうよう考えている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年に1回家族会を開催している。家族会で必ず行うことは会長の選出と年間活動の報告、法人本部から法人の年度方針等の報告であり、あとは情報交換となっている。個人別データは前述の如くパソコンに打ち込んであるが、毎月、個人別にまとめて打ち出しファイルしている。ご家族の要望があればそのファイルを閲覧してもらっている。医療連携体制の認可を受けており、同じ棟の湘南御茶の水クリニック、本部、看護師の体制で医学的安心が維持出来ている。医学的処置が必要なケースに備え特養の予約申込もお薦めしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>災害時の対応、協力体制については運営推進会議のテーマとして、重度化の問題も含めてご相談、ご協力をお願いして行く。泉・戸塚ブロックのグループホーム連絡会の分科会があり交換研修など実施している。中学生のふれあい体験学習では、地域の保健婦さんと一緒に訪問がある。泉区とはグループホームの運営推進会議の他に生活保護の入居者の関係で連絡は深い。運営推進会議の席で自治会副会長さんから「グループホームをもっと知ってもらわなきゃ」とのお話も頂き、啓発に取り組んでいる。</p>
	<p>重点項目④</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「老いても生活障害があっても安らかにその人らしい生活が継続できるように支え続けていきます」というホーム独自の理念の基日々取り組んでいる。法人の理念の中に地域福祉への貢献が謳われている。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	重度化が進む中でいかにその人らしい生活を継続していただくか。そのため職員はどのような支援が必要なのかを考えながら取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内会に加入している。町内子ども会のお神輿訪問があったり、中学生の触れ合い体験を目的とした中学生の訪問があり、地域との交流に努めている。入居者の重度化、職員不足もあり、ホームから地域に出て行くには難しい面があるので、地域の方々の訪問については、積極的に受け入れて行きたい。	○	入居者の重度化、職員不足もあり、ホームから地域に出て行くには難しい面があるので、地域の方々の訪問については、積極的に受け入れて行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年のアンケートの中で①入居者の重度化に伴いリフト設置希望があった。法人が浴室へのリフト浴設置を業者に依頼したが、建物の耐久性がなくて設置不可能であった。また ②災害時対応の意見もあり、災害時の支援方法について地域(自治会)に相談した所、地域支え合い事業の説明があった。災害時要援護者の登録を地域に行うなど、地域との関わりが持った。評価に真面目に取り組んだ事例である。		①リフト浴設置が不可能なので現状として、脱衣場、浴室内を暖房で温めてシャワチェアで対応をしている。②今後とも地域との連携を深めるためにも、地域防災訓練行事等に参加していくなど具体的に改善に努めて行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も泉区方式に従って開催し、上飯田地域エリア全体として2回、町内ブロックとして2回実施している。今年度は「災害時における地域との連携」についてのテーマで話し合いを重ねた。結果として地域支え合い要援護者の登録、地域防災訓練への参加を行い、更に各グループホームでの防災訓練の実施に取り組んでいる。	○	運営推進会議で「災害時における地域との連携」について話し合い取り組んでいるが、地域の委員から「大切なのはグループホームを知ってもらうことから地域の連携は始まる」とアドバイスがあった。この言葉を大事にしながらい今後とも取り組んで行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは直接関わっていないが、上飯田地域保健福祉計画に基づいて自治会、社協、連絡会、行政、ケアプラザが連携している。その活動の一環として中学生の触れ合い体験があり、中学生を受け入れている。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族との面会時、ケアプランの説明時に入居者の生活状況・身体状態の説明、医療受診後の結果、金銭管理のための出納帳の明細確認、新規職員の紹介・挨拶、行事の予定などについて報告している。金銭管理については、隔月で明細を郵送している。家族との信頼関係を大切にしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見、不満、苦情があるときの相談機関については、契約時に提示する重要事項に明記している。また、第三者委員会を設立して、その旨を玄関に掲示している。家族の会の総会でも、家族が意見、不満、要望等を表出できる機会を設けている。家族の会での意見、運営推進会議での家族からの意見・提案があり、できる所から取り入れ実施して行く。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむなく職員の異動、離職が発生した場合、その影響を最小限に抑えるよう努力している。利用者へのダメージを最小限にするため、新しい職員が入ったときは必ず馴染みの職員が2人入るようにシフトを組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	H20年度法人事業計画の中で、職員教育(全職員対象、中堅管理職・リーダー対象)が企画され実施している。全職員対象は、内部研修(医務研修)として知識・技術修得のため必ず全職員受講として実施している。中堅管理職・リーダー対象の研修は、希望者が受講している。その他認知症介護指導者養成研修、高齢者の摂食、嚥下障害の研修、市グループホーム協議会主催の現場研修に参加している。		今後も定期的なスキルアップを図ることで修得維持ができるようにして行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所会議としては同じ誠幸会が経営するグループホーム泉の郷上飯田町及び近くのグループホーム小さい手を加えた中村町内会のものを開催している。メンバーは自治会長、自治副会長、ご家族、事務局で、オブザーバーとして泉区サービス課長、地域包括支援センターが加わって行っている。	○	運営推進会議の上飯田地域エリアのグループホームと地域の防災について話し合ったり 機会があれば交換研修の話も出ている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から入居申し込みがあった時は、なるべく本人がホームを見学するよう勧めている。見学日が決まったら、おやつ頃に見学して頂き、ゆっくり入居者達とくつろげるように配慮している。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者が一緒にレクを行ったり、新聞の読み聞かせ等もし新聞の内容について談話したり、喜怒哀楽を共にし入居者から学ぶ事が日々沢山ある。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望の聞ける方には把握し、実践できるよう努めている。ご自分の思いを言えない方には、まずは基本的な生活をしっかりと支えながらご本人の楽しみの部分を作れるようにしている		ケアプランに落しきれていない部分もある為今後更に研鑽を深める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申送りやミニミーティングの中で課題やケアについて話し合っている。		ご家族やご本人の希望がなかなか聞けていないため、今後はもっと話を聞くよう努める。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化や新たな周辺症状の現れ、ご本人にとっての困りごとや生活に活かせる力の発見などがあった際にはその都度追加でケアプランの作成を行なっている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの外食時法人の大型バスを利用したり 法人主催の行事である納涼祭、餅つきに参加している。又 福祉用具が必要になった入居者に福祉用具の提供をしたり 職員のスキルアップのために医務課の内部研修があったり、入居者が嚥下困難になった時に管理栄養士からアドバイスをいただいたりしている。		法人が多くの介護保険サービスを運営しているので、今後も事業所の多機能を積極的に活用していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である湘南お茶の水クリニックを受診し、状況に応じて湘南泉病院を紹介していただき受診している。往診は精神科、眼科、皮膚科、歯科の医師がホームにきて診察を受けている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症、病気による重度化、終末期については、家族、ホーム、かかりつけ医と連携しながらホームでできるところまでを見極めて介護をしている。管理者が看護師であり医療連携体制の認可を受けている。現状では、ターミナルの体制はまだできていない。しかし、職員一人一人が介護の知識、技術を高めて入居者の重度化、終末期に向けて対応できるように取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴染みの関係づくりの中で慣れすぎてしまっている言葉かけもあるように思われるので、もう一度お互いに言葉掛けや接し方を振り返り気をつけて見直していく。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的な見直しを行なう事で一人一人の希望に添うケアが出来る限り実践していけるように努めている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の重度化もあり、一緒に準備・片づけをする場面が減っている。介助もある為のんびりとはいかないが食事は一緒に行ない会話をする事で楽しんでいただけるように努めている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご希望の時間帯やご本人の気分にあわせ入浴していただけるように努めている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	身体能力の低下に伴い何かをするよりものんびりしているという方も増えてきているため限られてしまっている面はあるものの、出来る方には出来る部分でその力を活かしていただいている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限りご希望に添えるように努めてはいるものの重度化の影響もあり状況によっては希望に添えないときもある。出来る限りご本人の希望に合わせて散歩等を実践している。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアの意識はしているが、出しまわれる方の介助よりも、フロアに残される利用者への介助が不十分になる恐れがあり、転倒が増えてきている現状を考えると、安全面を優先せざるを得ない状況である。閉鎖的にならないようにボランティアさんのいらっしゃる日には開錠したり、入居者の活動が室内だけにならないように散歩や買い物に出かける取り組みを継続して行く。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導に基づきホーム全体として消防避難訓練を行なっている。入居者の重度化もあり、避難の方法など定期的に確認して行く。また地域住民の協力体制についても再度働きかけを行なっていく。	○	今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関しては中々とっていただけない方もいるが工夫しながら必要量を摂取していただいている。食事の量に関してはその方の運動量に合わせて量を盛り付けている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夕刻の西日が直接入ってしまうもののリビングには明るい日差しが入る。照明も明るすぎず暗すぎず、その場所にあわせた色合い、強さになっている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やテレビなどご自宅で使われていた物を用意していただいている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム泉の郷 のぞみ
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区
記入者名 (管理者)	山口和子、神成麻美、小寺静香
記入日	平成 21 年 2 月 18 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り玄関に掲示している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議を通して理念の具体化及び運営理念の共有を実施し、玄関に理念を掲示している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム玄関に理念を掲示しており、町内会にも加入し来訪者に見ていただけるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	門にホームの表札はあるが、駐車場があるのでホームの敷地内は実質的に出入り自由である。職員・入居者が散歩中に近隣の人にであうと必ず挨拶している。ホーム近くの理容店を利用しているが、必要によりホームに散髪に来ていただいている。また、ショッピングセンターの出前をとったりと、日常的な付き合いができるように努めている。	○	地域の中のグループホームを目指し 機会があればもっと地域の方と交流したり話せる機会を作っていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内会に加入している。町内子ども会のお神輿訪問があったり、中学生の触れ合い体験を目的とした中学生の訪問があり、地域との交流に努めている。	○	入居者の重度化、職員不足もあり、ホームから地域に出て行くには難しい面がある。地域の方々の訪問については、積極的に受け入れていきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は介護者教室を開催していないが、グループホーム入居を考えている人、ケアマネグループなどホーム見学希望者を積極的に受け入れてグループホームを知ってもらうように努めている。	○	グループホームを見学したい方、申し込みをしたい方などの希望者を積極的に受け入れ、対応していきたい。
---	--	--	---	---

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	①昨年、入居者の重度化に伴い、法人が浴室へのリフト浴設置を業者に依頼したが、建物の耐久性がなくて設置不可能だった。 ②昨年、災害時の支援方法について地域(自治会)に相談した所、地域支え合い事業の説明があった。災害時要援護者の登録を地域に行うなど、地域との関わりを大切にしている	○	①リフト浴設置が不可能なので現状として、脱衣場、浴室内を暖房で温めてシャワチェアで対応している。 ②今後とも地域との連携を深めるためにも、地域防災訓練行事等に参加していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も泉区方式に従って開催し、上飯田地域エリア全体として2回、町内ブロックとして1回実施している。今年度は「災害時における地域との連携」についてのテーマで話し合いを重ねた。結果として地域支え合い要援護者の登録、地域防災訓練への参加を行い、更に各グループホームでの防災訓練の実施に取り組んでいる。	○	運営推進会議で「災害時における地域との連携」について話し合い取り組んでいるが、地域の委員から「大切なのはグループホームを知ってもらうことから地域の連携は始まる」とアドバイスがあった。この言葉を大事にしながら今後とも取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは直接関わっていないが、上飯田地域保健福祉計画に基づいて自治会、社協、連絡会、行政、ケアプラザが連携している。その活動の一環として中学生の触れ合い体験があり、中学生を受け入れている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者で財産管理が必要な方および入居前にマルチ商法による被害にあった方については、成年後見制度を活用している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で身体拘束は絶対しないというスローガンのもと日々介護をしている。	○	現場の気づき、事故報告書を通して身体拘束をしないリスクマネジメントを学んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約締結にむけては、契約書条項に基づき、利用者および家族の意向や不安を聞いて、十分な説明をするとともに、今後の生活についても利用者及び家族と話し合い 理解、納得いただいた上で決定している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が意見、不満、苦情を管理者、職員に表出できるように配慮している。入居者が外部者へ直接表出できる機会は難しく、家族、介護者を介して表出するようになる。入居者の意見、不満等があったら聞いて改善、実現出きる所があったら実行するように努めていく。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時に入居者の生活状況・健康状態の報告、金銭管理のための出納帳の明細確認、新規職員の紹介・挨拶、行事の予定などについて報告している。金銭管理については、隔月で明細を郵送している。	○	家族の面会時、ケアプランの説明時に入居者の生活状況、身体状態を説明したり 医療受診後の結果についてもその都度報告し 家族との信頼関係を大切にしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見、不満、苦情があるときの相談機関については、契約時に提示する重要事項に明記している。また、第三者委員会を設立して、その旨を玄関に掲示している。家族の会の総会でも、家族が意見、不満、要望等を表出できる機会を設けている。	○	家族の会での意見、運営推進会議での家族からの意見・提案があり、できる所から取り入れ実施していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体職員会議、自己申告書等で運営に関する職員の意見、提案を聞く機会を設けて改善できる所からしているが、まだ充分とは言えない。	○	運営に関して職員が日々の業務時間帯でも意見、提案等を話せる機会をもち、反映させていくようにする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員不足のため、状況の変化、要望に柔軟な対応ができる体制になっていない。しかし、時間外勤務の形で人員確保を対応している。また、職員不足の対応には法人全体で支援できる体制作りをしている。	○	入居者の安心、安全確保と働きがいのある職場作りの両面から、何が必要なのかをとらえて取り組んでいきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむなく職員の異動、離職が発生した場合、その影響を最小限に抑えるよう努力している。	○	利用者へのダメージを最小限にするため、新しい職員が入ったときは必ず馴染みの職員が2人入るようにシフトを組んでいる。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

5. 人材の育成と支援

○職員を育てる取り組み	H20年度法人事業計画の中で、職員教育(全職員対象、中堅管理職・リ	H20年度法人の全職員対象の職員教育では、入居者の
-------------	-----------------------------------	---------------------------

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ターゲットが企画され実施している。全職員対象は、内部研修(医務研修)として知識・技術修得のため必ず全職員受講として実施している。中堅管理職・リーダー対象の研修は、希望者が受講している。その他認知症介護指導者養成研修、高齢者の摂食、嚥下障害の研修、市グループホーム協議会主催の現場研修に参加している。	○	H20年度法人の全職員対象の職員教育では、入居者の重度化対応として職員の知識、技術のレベルアップが図られ、今後も定期的なスキルアップを図ることで修得維持ができるようにしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上飯田地域包括エリアの運営推進会議に参加することで、他グループホームとの交流が図れ、状況を理解することができた。また、市グループホーム協議会の現場研修を通じ、職員同士が相互に学びあっている。	○	運営推進会議の上飯田地域エリアのグループホームと地域の防災について話し合ったり 機会があれば交換研修の話も出ている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	H20年度の親睦会の活動として、部門ごとの職員交流(食事会)と全体の旅行、スポーツ企画があつて希望参加になっていたが、職務の関係で参加ができない職員もいた。法人も職員が言いやすい関係作り、働きやすい環境作りに努めている。	○	今後とも職員の意見、要望等を取り入れながら親睦会を発展させ、職員が働きやすい職場作りを目指していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人では職員が資格取得するために、親睦会で勉強会を企画するなどの働きかけを行っており、実際に勉強会の企画・実施を行っている。また、職員各位が希望する職場でモチベーションを維持しながら働けるように、勤務状況の把握、資格取得、内部・外部研修の機会提供を図っている。	○	各資格を取得すると昇給手当が支給され、資格取得の励みになっている。また、法人も資格取得を奨励している。

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みがあつた時、訪問調査の折に必ず本人と面接し、心身両面から話をよく聴き、アセスメントしている。	○	本人が不安なこと、求めていることがあつたら受け止め、アセスメントをして入居後も継続して対応している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込み時点から、法人の窓口が家族の要望、不安などを聴いて把握している。更に、訪問調査の折に家族が要望、不安としている情報を収集し、受け止め、対応している。	○	家族が困っていること、不安なこと、求めていることを受け止め、アセスメントをして入居後も継続して対応していくようにしている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から入居申し込みがあつたり、相談を受けた場合は、他のサービス利用状況や家族の介護力状況をみながら対応している。	○	他のサービス利用をしながら、安心、安全な生活を入居まで継続して受け入れるようにしている。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から入居申し込みがあった時は、なるべく本人がホームを見学するよう勧めている。	○	なるべく家族、本人が見学するようにしている。見学日が決まったら、おやつの頃に見学して頂き、ゆっくり入居者達とくつろげるように配慮している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者が一緒にレクを行ったり、新聞の読み聞かせ等もし新聞の内容について談話したり、喜怒哀楽を共にし入居者から学ぶ事が日々沢山ある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員、家族との信頼関係が出来ており、細かい事でも家族に連絡し職員、家族が共に考え実行している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時には、今の入居者の状況を話したり、月1回の外食、季節ごとの行事に家族をお誘いし参加して頂いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係は、途切れてしまっている。馴染みの場所に行きたい。と訴える入居者がいない。	○	馴染みの人に会いたいや場所に行きたい。と訴える事の出来る方には、実行して行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員も混じりレクを行ったりし、利用者同士の良い関係が築ける様に支えている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の退居後、施設からも電話をしたりと1年位は、家族との関係を続けている。		

1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望は、聞く様にはしているが、現実的には困難な事が多過ぎる。	○ ユニット会議に出し本人の意向に沿う様に検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを見たり家族から情報を得て把握している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりを良く観察し、現状を把握する様にしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員を対象に見直しをする入居者のアセスメントシートに記入してもらい、計画作成担当者と居室担当者が取りまとめ話し合いながら作成している。	○ 介護計画を作成する前に家族の意見も聞く様にしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1度ケアプラン作成し、入居者の状況が変わった時には、直に新しいケアプランを作成している。	
	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに貼り、職員全員が目を通す様にしている。	

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの外出時法人の大型バスを利用したり 法人主催の行事である納涼祭、餅つきに参加している。又 福祉用具が必要になった入居者に福祉用具の提供をしたり 職員のスキルアップのために医務課の内部研修があったり、入居者が嚥下困難になった時に管理栄養士からアドバイスをいただいたりしている。	○	法人が多くの介護保険サービスを運営しているので、今後も事業所の多機能を積極的に活用していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会に加入し。地域行事としての町内子ども神輿の訪問、中学生のふれあい体験、ボランティアの訪問がある。また、ホーム近くの理容店を利用したり、訪問理容にもきている。近くのショッピングセンターの出前をとったりと、地域と交流をもてるように努めている。	○	入居者のQOL向上のために、もっと町内会に働きかけて地域資源を開拓し活用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人のニーズに応じて他の事業所と話し合い、同意の上で自宅があった地域に外出同行（訪問介護）のサービスを受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の中で、包括支援センターからアドバイスをいただいている。また、入居者が無断外出で行方不明の時などは協力をいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である湘南お茶の水クリニックを受診し、状況に応じて湘南泉病院を紹介していただき受診している。往診は精神科、眼科、皮膚科、歯科の医師がホームにきて診察を受けている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の医師による往診があるので、その折に内服薬の相談をしたり、アドバイスをいただいている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの管理者が看護職なので、入居者の健康管理をしながらクリニックの医療職と連携を取り合っている。また、本部の医務課の看護師による医務研修があったり、月1回ホームを訪問してアドバイスをいただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者の方が入院した時、家族と連絡を取り合いながら医療機関と連携し早期退院に向けて三者面談を行い受け入れ態勢作りをしている。	○	家族と入院時の情報を共有し、早期退院ができるように病院との連携を今後ともとっていききたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症、病気による重度化、終末期については、家族、ホーム、かかりつけ医と連携しながらホームでできるところまでを見極めて介護をしている。	○	現状では、ターミナルの体制がまだできていない。しかし、職員一人一人が介護の知識、技術を高めて入居者の重度化、終末期に向けて対応できるように取り組んでいる。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の入居者のケアについては、「できること、できないこと」について家族と話し合っている。そしてケアプランを立案して家族に説明し、同意を得てチームケアで取り組んでいる。	○	本人、家族の思い、要望を大切にしながら家族とホームで「できること、できないこと」を話し合いながら介護をしている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の要望、同意を得て生活の場所を移り住む時は、十分な情報収集をしたり、情報提供をしてダメージの予防に努めている。	○	今後とも環境の変化によるダメージが最小限にとどめられるように努めていきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のペースに職員が合わせ利用者のプライバシーを損ねる様な対応は、行っていない。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の利用者に合わせ難しい説明は避け、利用者の意向を大切に支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	以前より重度化はなくなり、1人ひとりのペースを大切に希望に沿った支援を出来る様日々取り組んでいる。	○	重度な利用者に時間を取られてしまっているが、自立度の高い利用者への個別対応等も出来る様に考えていきたい。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類の選択は、入居者が行う。出来ない入居者には、支援している。希望に合わせて近くの理容室、美容院に行っている。行けない入居者は、出張理容を利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が付きサポートしている。食事の準備が出来る入居者はいないが、食器洗いをして下さる入居者と職員と一緒に食器洗いをしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	訴える事の出来る入居者には、好きなおやつをお渡しする事はしている。お酒、たばこを飲む方は、いない。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意を感じなくなった方、あるいは、見当識障害のある入居者には、トイレ誘導を行っている。		
	○入浴を楽しむことができる支援	入浴をしない、と訴える事のできる入居者が残っていない為		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴をしたい。と訴える争いの口米の入居者が多く、1日置きの入浴をして頂いている。拒否のある入居者に対しては、無理に入浴して頂かず、ご機嫌良く入浴して頂ける時に入浴して頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々のペースを大切に、落ち着ける場所で休憩が取れる様にしている。不穏時の時等は、マンツーマンで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で出来る事は、ご自分で行ってもらい、声掛けで家事仕事等を手伝って頂く。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々利用者がお金を管理する事は、困難である。買い物に出掛ける時は、ご本人にお金を渡しご自分で支払いをしていただいている。(買い物、ドライブ)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩をすることで気分転換を図りたい方には、声掛けをし、外に出る機会をつくれるよう対応している。また、日中、散歩の時間を設け、希望を聞きながら外に出る機会をつくっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力を得て、一緒に外出されたり、職員とともに買い物、外食に行かれるなどの機会をつくっている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置している方もいる。また、希望に応じて、ホームの電話を使用していただけるようにしており、職員が随時対応している。その他にも、年賀状など手紙を書く機会も設けている。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間などは決まっておらず、いつでも訪問していただけるようになっている。また、お茶を出したり、必ず声掛けをするなど、居心地のよい雰囲気作りをこころがけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアの中で、また会議の議題にあげるなどして職員間で話し合い、実践している。出来る限り見守りや介助で対応しているが、どうしても危険が伴うと判断した場合、法人に相談してからご家族に説明、同意の上、身体拘束をしないケアの方法を工夫しながら対応をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、職員の見守りで鍵をかけていない。また、職員の手が多く必要となった場合は、他ユニットに応援を頼むなどして対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に利用者の所在や行動を把握するように努め、見守り、巡視を行っている。プライバシーに配慮し、利用者それぞれの意思を大切にしながら、居室に声掛けに行ったり、リビングでレクリエーションをするなどして、状況に応じた見守りを行うよう工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各居室には、各々私物を所有しているが、状況、状態に応じて、危険、混乱を軽減できるように対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のケアの中で話し合いを設けたり、研修の機会をもうけている。又利用者一人一人の状態や変化に応じて介助方法を変えていくようにしている。例えば人により食事形態を変える、見守り、声掛けの仕方を変える、薬の袋には必ず氏名、日付を記入、投薬後まで見守りするなど。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成しており、各ユニットで閲覧できるようになっている。また、緊急時に備えて、吸引や心肺蘇生等の講習も行っている。		
	○災害対策	火災時の初期対応(通報や消火方法)についてはマニュアルを作成したり研修で消火器を使用するなどの学習を行い、		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ルを作成したり研修で消火器を使用するなどして学んでいる。実際の避難においては近隣の協力が不可欠であると思われる為、散歩に出た時に地域の人々に挨拶するなど交流を持つことで、施設に対する理解や協力を得られるよう努めている。	○	実際に利用者の誘導の仕方など訓練も必要と思われるので今後取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族が面会に来られた際、またご家族から連絡を受けた際などに、現状についてお話しし、理解を得ていただいている。介護方法や起こり得るリスクについても説明し、一緒に考えていけるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、事故や急変時はすぐに管理者に報告し指示をあおぎ対応するようにしている。ご家族にも報告する。また、各職員が気づいたことは些細なことでも申し送り等で伝えることで情報を共有し、皆で状態観察を行うようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療情報ノート、内服薬情報のファイルを作成し、各利用者の薬の情報がすぐにわかるようになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が続く方には牛乳やヨーグルトを提供したり、野菜や水分量を増やしたり、散歩など適度な運動を進めるなどの工夫を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人のコップ、歯ブラシを用意し、毎食後、声掛けや職員介助で口腔ケアを行っている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に関しては毎食一人一人チェックし記録に残している。また、水分摂取においても一人一人把握し、摂取量が少ない方は一日の水分摂取量を記録しトータル量を出している。摂取量が多い方は、一回ずつの提供量を少なくしたり、夜間の排泄に影響される方には夕方より水分量を調節するなどの工夫をしている。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、掃除の徹底で、発生の予防に努めている。また、発生時、二次感染を防ぐため、感染源の処理方法などの対応について研修を行い学んでいる。	○	平成21年1月にノロウイルス発生。事前に研修を行っていた為、速やかに対策を講じることができたが、発生源の特定はできず。今後も手洗いや掃除(消毒)を徹底していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前に手洗いを徹底し、調理する職員を勤務帯によって決めている。また、食材においては2、3日分ずつその都度購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は玄関に鍵をかけておらず、門もないことから、自由に出入りできるようになっている。また、表札をかかげ周辺の方にもわかりやすいようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、リビングにはソファがあり、人形や季節のお花などを飾ることで生活感があり、くつろぐことのできる空間作りをしている。また、お正月には書初めを、七夕には笹など季節感を感じていただける工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには利用者一人一人の決まった席がある一方で、ソファなどを配置し、気の合った方同士で座ってお話ができるようにしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室にはご本人が使用してきたものや、好きなもの、使いやすいものを置いていただくようにしている。ただし、状況に応じて危険や混乱が伴うような場合は、家族と相談の上 家族に持ち帰って頂くなどの配慮をしている。		
	○換気・空調の配慮	換気扇の定期的な清掃、換気をするよう心がける		

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>においかこもらないようその都度、換気をするように心かけている。また、暖房、クーラーを使用しながら加湿、除湿を行い、利用者さんに合わせた温度調節をおこなうようにしている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行する場所にはつまずきそうなものがないようにし、廊下やトイレ、脱衣所などに手すりを配置している。また、窓ガラスや段差にはカラーテープを貼るなど視覚的にもわかりやすくし、できるかぎり安全に生活していただけるように工夫している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレに「お手洗い」と表示したり、各居室や席に名前を表示したりと、わかりやすくしている。また、ひとつひとつの声掛けを大事にし、混乱がみられる場合はさりげなく介助できるよう援助している。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の外周りやベランダには花壇や実のなる木があり、花を觀賞されたり、果実を収穫することを楽しんでいる。また、ベンチが配置されており、外気浴をされている方もいる。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

H20年度法人事業計画の中に職員教育があげられ全職員対象の内部（医務）研修が義務受講として1年間実施している。

開設8年目になり入居者の重度化に伴い内部研修に参加して職員の知識、技術のレベルアップが図られている。

研修項目

- ・心肺蘇生、AED、ハイムリック法について
- ・ノロウイルス対策（吐物処理、対策）について
- ・吸引器の取扱、口腔ケアについて
- ・嚥下、摂食方法について
- ・褥瘡と体位交換について

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム泉の郷
(ユニット名)	ふれあい
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区
記入者名 (管理者)	山口和子、小原麻美子
記入日	平成 21 年 2 月 18 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームに相応した運営理念を掲げている。玄関の入り口・事務所に理念と3項目の運営方針、目的をいつでも確認できるよう掲示している。	○	目標に対する意識を高めていけるよう、月に1度の職員会議を通し、話し合いの場を作りながら目標達成できるよう心掛けていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の介護に対する方向性は理念が根本になっており、取り組んでいっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の方には来訪時など職員側から話しかけるよう取り組んでおり、必要事項で電話する時などでも行なっている。地域の人々に対しては町内会に入っているため、イベントを通して理解を深めていけるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	門にホームの表札はあるが、駐車場があるのでホームの敷地内は実質的に出入り自由である。職員・入居者が散歩中に近隣の人にであうと必ず挨拶している。ホーム近くの理容店を利用しているが、必要によりホームに散髪に来ていただいている。また、ショッピングセンターの出前をとったりと、日常的な付き合いができるように努めている。	○	地域の中のグループホームを目指し 機会があればもっと地域の方と交流したり話せる機会を作っていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内会に加入している。町内子ども会のお神輿訪問があったり、中学生の触れ合い体験を目的とした中学生の訪問があり、地域との交流に努めている。	○	入居者の重度化、職員不足もあり、ホームから地域に出て行くには難しい面がある。地域の方々の訪問については、積極的に受け入れていきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>現在は介護者教室を開催していないが、グループホーム入居を考えている人、ケアマネグループなどホーム見学希望者を積極的に受け入れてグループホームを知ってもらうように努めている。</p>	○	<p>グループホームを見学したい方、申し込みをしたい方などの希望者を積極的に受け入れ、対応していきたい。</p>
---	---	---	---	--

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>①昨年、入居者の重度化に伴い、法人が浴室へのリフト浴設置を業者に依頼したが、建物の耐久性がなくて設置不可能だった。</p> <p>②昨年、災害時の支援方法について地域(自治会)に相談した所、地域支え合い事業の説明があった。災害時要援護者の登録を地域に行うなど、地域との関わりを大切にしている</p>	○	<p>①リフト浴設置が不可能なので現状として、脱衣場、浴室内を暖房で温めてシャワチェアで対応をしている。</p> <p>②今後とも地域との連携を深めるためにも、地域防災訓練行事等に参加していく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年度も泉区方式に従って開催し、上飯田地域エリア全体として2回、町内ブロックとして1回実施している。今年度は「災害時における地域との連携」についてのテーマで話し合いを重ねた。結果として地域支え合い要援護者の登録、地域防災訓練への参加を行い、更に各グループホームでの防災訓練の実施に取り組んでいる。</p>	○	<p>運営推進会議で「災害時における地域との連携」について話し合い取り組んでいるが、地域の委員から「大切なのはグループホームを知ってもらうことから地域の連携は始まる」とアドバイスがあった。この言葉を大事にしながら今後とも取り組んでいきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村とは直接関わっていないが、上飯田地域保健福祉計画に基づいて自治会、社協、連絡会、行政、ケアプラザが連携している。その活動の一環として中学生の触れ合い体験があり、中学生を受け入れている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者で財産管理が必要な方および入居前にマルチ商法による被害にあった方については、成年後見制度を活用している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人全体で身体拘束は絶対しないというスローガンのもと日々介護をしている。</p>	○	<p>現場の気づき、事故報告書を通して身体拘束をしないリスクマネジメントを学んでいる。</p>

項目

取り組みの事実
(実施している内容・実施していない内容)

(○印)

取り組んでいきたい内容
(すでに取り組んでいることも含む)

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約締結にむけては、契約書条項に基づき、利用者および家族の意向や不安を聞いて、十分な説明をするとともに、今後の生活についても利用者及び家族と話し合い 理解、納得いただいた上で決定している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が意見、不満、苦情を管理者、職員に表出できるように配慮している。入居者が外部者へ直接表出できる機会は難しく、家族、介護者を介して表出するようになる。入居者の意見、不満等があったら聞いて改善、実現出きる所があったら実行するように努めていく。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時に入居者の生活状況・健康状態の報告、金銭管理のための出納帳の明細確認、新規職員の紹介・挨拶、行事の予定などについて報告している。金銭管理については、隔月で明細を郵送している。	○	家族の面会時、ケアプランの説明時に入居者の生活状況、身体状態を説明したり 医療受診後の結果についてもその都度報告し 家族との信頼関係を大切にしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見、不満、苦情があるときの相談機関については、契約時に提示する重要事項に明記している。また、第三者委員会を設立して、その旨を玄関に掲示している。家族の会の総会でも、家族が意見、不満、要望等を表出できる機会を設けている。	○	家族の会での意見、運営推進会議での家族からの意見・提案があり、できる所から取り入れ実施していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体職員会議、自己申告書等で運営に関する職員の意見、提案を聞く機会を設けて改善できる所からしているが、まだ充分とは言えない。	○	運営に関して職員が日々の業務時間帯でも意見、提案等を話せる機会をもち、反映させていくようにする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員不足のため、状況の変化、要望に柔軟な対応ができる体制になっていない。しかし、時間外勤務の形で人員確保を対応している。また、職員不足の対応には法人全体で支援できる体制作りをしている。	○	入居者の安心、安全確保と働きがいのある職場作りの両面から、何が必要なのかをとらえて取り組んでいきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむなく職員の異動、離職が発生した場合、その影響を最小限に抑えるよう努力している。	○	利用者へのダメージを最小限にするため、新しい職員が入ったときは必ず馴染みの職員が2人入るようにシフトを組んでいる。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

5. 人材の育成と支援

○職員を育てる取り組み	H20年度法人事業計画の中で、職員教育(全職員対象、中堅管理職・リ	H20年度法人の全職員対象の職員教育では、入居者の
-------------	-----------------------------------	---------------------------

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>（対象）が企画され実施している。全職員対象は、内部研修（医務研修）として知識・技術修得のため必ず全職員受講として実施している。中堅管理職・リーダー対象の研修は、希望者が受講している。その他認知症介護指導者養成研修、高齢者の摂食、嚥下障害の研修、市グループホーム協議会主催の現場研修に参加している。</p>	○	<p>H20年度法人の全職員対象の職員教育では、入居者の重度化対応として職員の知識、技術のレベルアップが図られ、今後も定期的なスキルアップを図ることで修得維持ができるようにしたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>上飯田地域包括エリアの運営推進会議に参加することで、他グループホームとの交流が図れ、状況を理解することができた。また、市グループホーム協議会の現場研修を通し、職員同士が相互に学びあっている。</p>	○	<p>運営推進会議の上飯田地域エリアのグループホームと地域の防災について話し合ったり 機会があれば交換研修の話も出ている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>H20年度の親睦会の活動として、部門ごとの職員交流（食事会）と全体の旅行、スポーツ企画があつて希望参加になっていたが、職務の関係で参加ができない職員もいた。法人も職員が言いやすい関係作り、働きやすい環境作りに努めている。</p>	○	<p>今後とも職員の意見、要望等を取り入れながら親睦会を発展させ、職員が働きやすい職場作りを目指していきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人では職員が資格取得するために、親睦会で勉強会を企画するなどの働きかけを行っており、実際に勉強会の企画・実施を行っている。また、職員各位が希望する職場でモチベーションを維持しながら働けるように、勤務状況の把握、資格取得、内部・外部研修の機会提供を図っている。</p>	○	<p>各資格を取得すると昇給手当が支給され、資格取得の励みになっている。また、法人も資格取得を奨励している。</p>

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込みがあつた時、訪問調査の折に必ず本人と面接し、心身両面から話をよく聴き、アセスメントしている。</p>	○	<p>本人が不安なこと、求めていることがあつたら受け止め、アセスメントをして入居後も継続して対応している。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込み時点から、法人の窓口が家族の要望、不安などを聴いて把握している。更に、訪問調査の折に家族が要望、不安としている情報を収集し、受け止め、対応している。</p>	○	<p>家族が困っていること、不安なこと、求めていることを受け止め、アセスメントをして入居後も継続して対応していくようにしている。</p>
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族から入居申し込みがあつたり、相談を受けた場合は、他のサービス利用状況や家族の介護力状況をみながら対応している。</p>	○	<p>他のサービス利用をしながら、安心、安全な生活を入居まで継続して受け入れるようにしている。</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から入居申し込みがあった時は、なるべく本人がホームを見学するよう勧めている。	○	なるべく家族、本人が見学するようにしている。見学日が決まったら、おやつの頃に見学して頂き、ゆっくり入居者達とくつろげるように配慮している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴や特技を生かし、台所のお手伝いや洗濯物干し・掃除・買い物の同行など職員と共に行動することによってお互いに支え合う関係を築きあげている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には職員側からご家族に話しかけるよう努め、日々の様子など伝えている。何かあればすぐ電話などをし相談するよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に一度外食を設けており、家族との交流を図れるようにしている。又、イベントごとに声をかけるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去に住んでいた場所が気になり見に行きたいという利用者さんに対し、個別外出の機会を作ったりと支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みんなで出来るレクリエーションを行ない、交流を図っている。又、天気の良い日などは散歩を行ない、一体感を持ってもらえるよう努めている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時以降、連絡を取り合っていない場合が多いが、ターミナルなどで亡くなったご家族には時々電話をしている。またご家族がホームに顔を見せることもある。	○	退居後の新しい生活に対する適応のことを考えると判断しがたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望や意向に沿うよう検討している。又、表現の困難な方に対しても何がその人にとって良いのかを本人主体で考えるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメント表を作成し、アセスメントに基づいたケアプランを作成・情報の共有を図っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的にケアプランを作成、見直しを行なっているが、職員全員が総合的に把握できているとは言い切れない。	○	今後もショートカンファレンス等を通して把握していきけるよう努める。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人には、日頃の生活の中から情報を集め、家族からは面会や外食日などを利用し要望や意見を取り入れたりしている。職員間は、日々のショートカンファレンスなどで話し合い、反映するようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しを6ヶ月に一度と定期的に行なっていると共に、入院し退院時などでも変化に応じ計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケース記録を個別に記録し保存している。また、生活リズム表・バイタル表等も記録・保存して医療受診、介護計画に活かしている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの外出時法人の大型バスを利用したり 法人主催の行事である納涼祭、餅つきに参加している。又 福祉用具が必要になった入居者に福祉用具の提供をしたり 職員のスキルアップのために医務課の内部研修があったり、入居者が嚥下困難になった時に管理栄養士からアドバイスをいただいたりしている。	○	法人が多くの介護保険サービスを運営しているので、今後も事業所の多機能を積極的に活用していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会に加入し。地域行事としての町内子ども神輿の訪問、中学生のふれあい体験、ボランティアの訪問がある。また、ホーム近くの理容店を利用したり、訪問理容にもきている。近くのショッピングセンターの出前をとったりと、地域と交流をもてるように努めている。	○	入居者のQOL向上のために、もっと町内会に働きかけて地域資源を開拓し活用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人のニーズに応じて他の事業所と話し合い、同意の上で自宅があった地域に外出同行（訪問介護）のサービスを受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の中で、包括支援センターからアドバイスをいただいている。また、入居者が無断外出で行方不明の時などは協力をいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である湘南お茶の水クリニックを受診し、状況に応じて湘南泉病院を紹介していただき受診している。往診は精神科、眼科、皮膚科、歯科の医師がホームにきて診察を受けている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の医師による往診があるので、その折に内服薬の相談をしたり、アドバイスをいただいている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの管理者が看護職なので、入居者の健康管理をしながらクリニックの医療職と連携を取り合っている。また、本部の医務課の看護師による医務研修があったり、月1回ホームを訪問してアドバイスをいただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者の方が入院した時、家族と連絡を取り合いながら医療機関と連携し早期退院に向けて三者面談を行い受け入れ態勢作りをしている。	○	家族と入院時の情報を共有し、早期退院ができるように病院との連携を今後ともとっていききたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症、病気による重度化、終末期については、家族、ホーム、かかりつけ医と連携しながらホームでできるところまでを見極めて介護をしている。	○	現状では、ターミナルの体制がまだできていない。しかし、職員一人一人が介護の知識、技術を高めて入居者の重度化、終末期に向けて対応できるように取り組んでいる。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の入居者のケアについては、「できること、できないこと」について家族と話し合っている。そしてケアプランを立案して家族に説明し、同意を得てチームケアで取り組んでいる。	○	本人、家族の思い、要望を大切にしながら家族とホームで「できること、できないこと」を話し合いながら介護をしている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の要望、同意を得て生活の場所を移り住む時は、十分な情報収集をしたり、情報提供をしてダメージの予防に努めている。	○	今後とも環境の変化によるダメージが最小限にとどめられるように努めていきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る時など、ノックして入るよう気遣いを怠らないようにしている。又、一人一人の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけを日々心掛けている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人に混乱を招くような事が無いよう、理解度に応じた対応や言葉かけを心掛けている。自己決定の実現が出来るよう支援をしている。(定期的な外出・家事手伝い・休息など)		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースを尊重し、参加したくないものがある場合は無理をさせないよう心掛けている。	○	その時その時の状況で、職員側で段取りや段取り変更をしながらも混乱なく利用者さんのペースで生活していけるようにしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	長い髪の方もおり、結ったりする支援を行なっている。又、洋服などは本人の好みに合わせて着ていただけるような声掛けや見守りを行なっている。理容・美容は近所に2ヶ所あり、本人の希望に沿って行く場所を決めている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みを把握し、調理や盛り付けを工夫している。又、本人の生活歴ややりたい事などを見極めながら、準備や片付けを手伝っていただいている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食材の買い物に入居者が同行し、おやつ等好みの物を購入したりしている。又、本人が望む飲み物を個別で購入したり、煙草を吸う方にはベランダで吸えるよう支援を行なっている。	○	最近だが、喫煙に関し、火の元の危険も見られるので、職員間で注意しながら見守り火の元確認の徹底と共に今後も支援を続けていけるよう努力していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄パターンを知る為に排泄チェックを行なっている。それに合わせトイレ誘導を行ない失敗しないよう努めている。リハビリパンツを使用しているもトイレでの排泄を目標にしている。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前・午後を問わず、毎日入浴できるようにしており、本人の希望に合わせて入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各居室やソファが休息の場になっている。又、昼寝時間の調整や散歩・体を動かすレクリエーションを取り入れ安眠策を考慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴に沿って、家事手伝いなどの役割を持っていただき、毎日夕方にレクリエーション(カルタ・トランプ)など取り入れ支援を行なっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理に関してはトラブル防止の為、事務所に預らせていただいている。しかし、本人の希望に応じて欲しいものを購入出来るよういつでも出金できるようになっている。	○	お金の所持を希望されている方には、ご家族にも相談の上、小銭(高額にならない程度)を持っていただくようにしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じ、出来る限り外に出たり散歩をしたりしているが、業務の流れの中で常にとは言い切れない。	○	職員間の連携を取りながら、時間を作っていけるよう工夫していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1~2度、訪問ヘルパーを利用したりして、以前住んでいた土地まで外出したりしている。又、御家族と共にドライブに出たり、外泊したりしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、事務所の電話を自由に使用する事が出来る。又、年賀状や暑中見舞いも出せるよう支援している。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族が頻繁に面会に来られる方もおり、居室にて一緒に過ごされている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なっていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、窓の鍵は自由に開けられるようになっている。又、ベランダの出入りも自由である。玄関は昼間、施錠を行っていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は定期巡回を行ない、所在や様子の確認を行なっている。昼間も職員間で声をかけあいながら所在や様子を確認するよう努めているが、無断外出や居室内での転倒などの事例が出てきている。	○	再度、職員間で原因分析から今後の対応など確認しあい、事故につながらないよう危険を回避していけるようにする。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その時、その人の状況に応じて、取り除いたり配置を替えたり預かったりとしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	本部で行なわれる内部研修などもあり、いざという場合での知識を学ぶ場はある。しかし、一人ひとりの状態に応じた事故防止まで取り組んでいるとは言い切れない。	○	内部研修や外部研修などの場に参加していくよう、職員が意識をもっていけるようにする。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員会議などでマニュアルの説明や内部研修などで初期対応の訓練や応急手当など行なっている。		
	○災害対策	災害対策については、マニュアルが作成されており緊急時対応の研		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に対しては、マニュアルを作成し、火災発生時対応の話し合いは行なわれている。地域の方の協力は不可欠であり、日々、散歩などで挨拶をしたりイベントに参加をしグループホームの存在を知っていただけるよう働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族の面会があった時などの機会です話をしたりしている。又、ケアプランの説明などでも細かく行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日に一度バイタルチェック(血圧・体温測定)を行なっており、入浴時の皮膚チェックや表情などを見ながら、異変の発見に努めている。又、気付いた時には管理者に報告・相談の上、申し送りノートや口頭伝達の上、情報を共有するよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬表をファイルしており、全職員が確認できるようにしている。又、夜勤を行なう職員が薬のセッティングを行なうようにもしており、薬に対する意識を持つよう努めている。症状の変化に対しては医療機関と相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の確認を行なっており、便秘気味の方にはセンナ茶、牛乳などをお勧めしている。又、ラジオ体操や散歩、外気浴などで生活リズムを作るよう取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを遂行し、個別で介助をしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量や水分量をチェックし、記録している。それを参考にし、水分の少ない方には職員側からお勧めしたり居室にて個別でその方の趣向に合わせて食事をしてもらい栄養バランスを取ったりとの対応を行なっている。	○	利用者さんの状態に応じ、高カロリー飲料の提供やミキサー食対応なども行っている。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防注射は毎年行なっている。又、感染症予防に関するマニュアルが法人にて作成してある。	○	H21年1月にノロウイルス発生。事前に研修を行っていた為速やかに対策を講じると共に法人の指示のもと対応し2次感染がなく終息している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間にまな板・ふきんの漂白を行なっている。又、冷蔵庫の掃除を定期的に行なっている。賞味・消費期限の確認も行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	あまり物を置かず、花や飾りなどを置き、家庭的な雰囲気を出すよう工夫を行なっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けや利用者さんにも使いかっの良 い器具の配置に心がけている。ソファも台所がよく見えるよ うな配置にしており生活感を感じれるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所裏のソファ、各居室、リビング、ベランダに設置しているイスなど各利用者さんが思い思いに過ごせる場所がある。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を、持ってきていただき、利用している。又、新しく購入していただくものにはご家族に相談し、ご本人に合った物を置くよう配慮している。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>朝起床時に窓を開けたり、外気温に合わせ、冷暖房調節を行なっている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりなどの増設工事もあり、安全面では以前より確保できていると思われる。</p>	○	<p>今後、さらに重度化が進むことを視野におき、再度確認・検討を必要としていく。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>分かりやすい表示(トイレ・居室・浴室)を行なっており、誤認しないよう工夫をしている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>一階には中庭があり、ボランティアの方が庭作りをして下さっているので植物を楽しめる空間がある。又、2階のベランダにもタバコを吸えるスペース、外気浴をしたり時にテーブルを出して食事をしたりしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

H20年度法人事業計画の中に職員教育があげられ全職員対象の内部（医務）研修が義務受講として1年間実施している。開設8年目になり入居者の重度化に伴い内部研修に参加して職員の知識、技術のレベルアップが図られている。

研修項目

- ・心肺蘇生、AED、ハイムリック法について
- ・ノロウイルス対策（吐物処理、対策）について
- ・吸引器の取扱、口腔ケアについて
- ・嚥下、摂食方法について
- ・褥瘡と体位交換について
- ・ペースメーカーと心疾患について

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム泉の郷
(ユニット名)	ほほえみ
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区
記入者名 (管理者)	山口和子、菊池昭市、原口いそ子、小泉優美子
記入日	平成 21 年 2 月 18 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	「老いても生活障害があっても安らかにその人らしい生活が継続できるように支え続けていきます」というホーム独自の理念の基日々取り組んでいる		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	重度化が進む中でいかにその人らしい生活を継続していただくか。そのため職員はどのような支援が必要なのかを考えながら取り組んでいる。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
	ホーム玄関に理念を掲示しており、来訪者に見ていただけるようにしている		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	地域の中のグループホームを目指し 機会があればもっと地域の方と交流したり話せる機会を作っていきたい。
	門にホームの表札はあるが、駐車場があるのでホームの敷地内は実質的に出入り自由である。職員・入居者が散歩中に近隣の人にであうと必ず挨拶している。ホーム近くの理容店を利用しているが、必要によりホームに散髪に来ていただいている。また、ショッピングセンターの出前をとったりと、日常的な付き合いができるように努めている。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	入居者の重度化、職員不足もあり、ホームから地域に出て行くには難しい面がある。地域の方々の訪問については、積極的に受け入れていきたい。
	地域の一員として町内会に加入している。町内子ども会のお神輿訪問があったり、中学生の触れ合い体験を目的とした中学生の訪問があり、地域との交流に努めている。		
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は介護者教室を開催していないが、グループホーム入居を考えている人、ケアマネグループなどホーム見学希望者を積極的に受け入れてグループホームを知ってもらうように努めている。	○	グループホームを見学したい方、申し込みをしたい方などの希望者を積極的に受け入れ、対応していきたい。
---	--	--	---	---

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	①昨年、入居者の重度化に伴い、法人が浴室へのリフト浴設置を業者に依頼したが、建物の耐久性がなくて設置不可能だった。 ②昨年、災害時の支援方法について地域(自治会)に相談した所、地域支え合い事業の説明があった。災害時要援護者の登録を地域に行うなど、地域との関わりを大切にしている	○	①リフト浴設置が不可能なので現状として、脱衣場、浴室内を暖房で温めてシャワチェアで対応している。 ②今後とも地域との連携を深めるためにも、地域防災訓練行事等に参加していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も泉区方式に従って開催し、上飯田地域エリア全体として2回、町内ブロックとして1回実施している。今年度は「災害時における地域との連携」についてのテーマで話し合いを重ねた。結果として地域支え合い要援護者の登録、地域防災訓練への参加を行い、更に各グループホームでの防災訓練の実施に取り組んでいる。	○	運営推進会議で「災害時における地域との連携」について話し合い取り組んでいるが、地域の委員から「大切なのはグループホームを知ってもらうことから地域の連携は始まる」とアドバイスがあった。この言葉を大事にしながら今後とも取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは直接関わっていないが、上飯田地域保健福祉計画に基づいて自治会、社協、連絡会、行政、ケアプラザが連携している。その活動の一環として中学生の触れ合い体験があり、中学生を受け入れている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者で財産管理が必要な方および入居前にマルチ商法による被害にあった方については、成年後見制度を活用している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で身体拘束は絶対しないというスローガンのもと日々介護をしている。	○	現場の気づき、事故報告書を通して身体拘束をしないリスクマネジメントを学んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約締結にむけては、契約書条項に基づき、利用者および家族の意向や不安を聞いて、十分な説明をするとともに、今後の生活についても利用者及び家族と話し合い 理解、納得いただいた上で決定している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が意見、不満、苦情を管理者、職員に表出できるように配慮している。入居者が外部者へ直接表出できる機会は難しく、家族、介護者を介して表出するようになる。入居者の意見、不満等があったら聞いて改善、実現出きる所があったら実行するように努めていく。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時に入居者の生活状況・健康状態の報告、金銭管理のための出納帳の明細確認、新規職員の紹介・挨拶、行事の予定などについて報告している。金銭管理については、隔月で明細を郵送している。	○	家族の面会時、ケアプランの説明時に入居者の生活状況、身体状態を説明したり 医療受診後の結果についてもその都度報告し 家族との信頼関係を大切にしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見、不満、苦情があるときの相談機関については、契約時に提示する重要事項に明記している。また、第三者委員会を設立して、その旨を玄関に掲示している。家族の会の総会でも、家族が意見、不満、要望等を表出できる機会を設けている。	○	家族の会での意見、運営推進会議での家族からの意見・提案があり、できる所から取り入れ実施していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体職員会議、自己申告書等で運営に関する職員の意見、提案を聞く機会を設けて改善できる所からしているが、まだ充分とは言えない。	○	運営に関して職員が日々の業務時間帯でも意見、提案等を話せる機会をもち、反映させていくようにする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員不足のため、状況の変化、要望に柔軟な対応ができる体制になっていない。しかし、時間外勤務の形で人員確保を対応している。また、職員不足の対応には法人全体で支援できる体制作りをしている。	○	入居者の安心、安全確保と働きがいのある職場作りの両面から、何が必要なのかをとらえて取り組んでいきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむなく職員の異動、離職が発生した場合、その影響を最小限に抑えるよう努力している。	○	利用者へのダメージを最小限にするため、新しい職員が入ったときは必ず馴染みの職員が2人入るようにシフトを組んでいる。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

5. 人材の育成と支援

○職員を育てる取り組み	H20年度法人事業計画の中で、職員教育(全職員対象、中堅管理職・リ	H20年度法人の全職員対象の職員教育では、入居者の
-------------	-----------------------------------	---------------------------

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ターゲットが企画され実施している。全職員対象は、内部研修(医務研修)として知識・技術修得のため必ず全職員受講として実施している。中堅管理職・リーダー対象の研修は、希望者が受講している。その他認知症介護指導者養成研修、高齢者の摂食、嚥下障害の研修、市グループホーム協議会主催の現場研修に参加している。	○	H20年度法人の全職員対象の職員教育では、入居者の重度化対応として職員の知識、技術のレベルアップが図られ、今後も定期的なスキルアップを図ることで修得維持ができるようにしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上飯田地域包括エリアの運営推進会議に参加することで、他グループホームとの交流が図れ、状況を理解することができた。また、市グループホーム協議会の現場研修を通じ、職員同士が相互に学びあっている。	○	運営推進会議の上飯田地域エリアのグループホームと地域の防災について話し合ったり 機会があれば交換研修の話も出ている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	H20年度の親睦会の活動として、部門ごとの職員交流(食事会)と全体の旅行、スポーツ企画があつて希望参加になっていたが、職務の関係で参加ができない職員もいた。法人も職員が言いやすい関係作り、働きやすい環境作りに努めている。	○	今後とも職員の意見、要望等を取り入れながら親睦会を発展させ、職員が働きやすい職場作りを目指していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人では職員が資格取得するために、親睦会で勉強会を企画するなどの働きかけを行っており、実際に勉強会の企画・実施を行っている。また、職員各位が希望する職場でモチベーションを維持しながら働けるように、勤務状況の把握、資格取得、内部・外部研修の機会提供を図っている。	○	各資格を取得すると昇給手当が支給され、資格取得の励みになっている。また、法人も資格取得を奨励している。

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みがあつた時、訪問調査の折に必ず本人と面接し、心身両面から話をよく聴き、アセスメントしている。	○	本人が不安なこと、求めていることがあつたら受け止め、アセスメントをして入居後も継続して対応している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込み時点から、法人の窓口が家族の要望、不安などを聴いて把握している。更に、訪問調査の折に家族が要望、不安としている情報を収集し、受け止め、対応している。	○	家族が困っていること、不安なこと、求めていることを受け止め、アセスメントをして入居後も継続して対応していくようにしている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から入居申し込みがあつたり、相談を受けた場合は、他のサービス利用状況や家族の介護力状況をみながら対応している。	○	他のサービス利用をしながら、安心、安全な生活を入居まで継続して受け入れるようにしている。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から入居申し込みがあった時は、なるべく本人がホームを見学するよう勧めている。	○	なるべく家族、本人が見学するようにしている。見学日が決まったら、おやつの頃に見学して頂き、ゆっくり入居者達とくつろげるように配慮している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も共同生活者の一員として入居されている方達と時間を共有し、共に生活を楽しむように取り組んでいる		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際にはご家族とも馴染みの関係づくりを心がけていると共にご本人を中心にご家族、職員の3者でケアに取り組めるような関係づくりを目指し取り組んでいる		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前からの良好な関係を維持できている。また、より良い関係作りに向けて面会の際など近況報告を行ない離れて暮らしていても安心感の持てるよう支援している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中にその方の郷里や住まれていた地域の話を出したりすることでその方の中で大切な物が失われていかないよう努めている。また、希望される方には年賀状を書いて頂くなど入居以前からの馴染みの人との関係維持も行なっている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	良くも悪くもお互いに関わりあう事で今現在の生活があるのだと考えている。こちらから勧めるのではなく、あえて関係を見守る事で利用者が自発的に他者の為になにかをしようとしてくださることも増えて来ている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	基本的にこちらから連絡をすることはしていない。必要性のある方や希望されるご家族がいらっしゃる場合には継続して関わりを持っていく。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望の聞ける方には把握し、実践できるよう努めている。ご自分の思いを言えない方には、まずは基本的な生活をしっかりと支えながらご本人の楽しみの部分を作れるようにしている	○	ケアプランに落としきれていない部分もある為今後改善していく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者基本台帳にある生活暦やご家族からの情報により把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一つ一つの動き、発言等にも注目し観察を怠らず状態把握に努めている。その中で出来る部分は活かし、出来ない部分はうまく支援できるようにケアプランに繋げている		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申送りやミニミーティングの中で課題やケアについて話し合っている。ご家族やご本人の思いを聞く事が少ないためケアプランに反映されていない	○	ご家族やご本人の希望がなかなか聞けていないため、今後はもっと話を聞くようにしていく
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化や新たな周辺症状の現れ、ご本人にとっての困りごとや生活に活かせる力の発見などがあつた際にはその都度追加でケアプランの作成を行なっている	○	ケアプランの作成が状態の変化に追いつけない事もあるため作成が遅れがちなることもある。今後はできるだけ現状にあわせてプラン作成できるように努める

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に入力する事で職員間だけでなくご家族とも情報の共有化を図っている。状態の変化などについての記録に継続性がない。	○	状態変化のあつた翌日などにもケアの結果や状態を記録できるようにしていく

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの外出時法人の大型バスを利用したり 法人主催の行事である納涼祭、餅つきに参加している。又 福祉用具が必要になった入居者に福祉用具の提供をしたり 職員のスキルアップのために医務課の内部研修があったり、入居者が嚥下困難になった時に管理栄養士からアドバイスをいただいたりしている。	○	法人が多くの介護保険サービスを運営しているので、今後も事業所の多機能を積極的に活用していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会に加入し。地域行事としての町内子ども神輿の訪問、中学生のふれあい体験、ボランティアの訪問がある。また、ホーム近くの理容店を利用したり、訪問理容にもきている。近くのショッピングセンターの出前をとったりと、地域と交流をもてるように努めている。	○	入居者のQOL向上のために、もっと町内会に働きかけて地域資源を開拓し活用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人のニーズに応じて他の事業所と話し合い、同意の上で自宅があった地域に外出同行（訪問介護）のサービスを受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の中で、包括支援センターからアドバイスをいただいている。また、入居者が無断外出で行方不明の時などは協力をいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である湘南お茶の水クリニックを受診し、状況に応じて湘南泉病院を紹介していただき受診している。往診は精神科、眼科、皮膚科、歯科の医師がホームにきて診察を受けている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の医師による往診があるので、その折に内服薬の相談をしたり、アドバイスをいただいている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの管理者が看護職なので、入居者の健康管理をしながらクリニックの医療職と連携を取り合っている。また、本部の医務課の看護師による医務研修があったり、月1回ホームを訪問してアドバイスをいただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者の方が入院した時、家族と連絡を取り合いながら医療機関と連携し早期退院に向けて三者面談を行い受け入れ態勢作りをしている。	○	家族と入院時の情報を共有し、早期退院ができるように病院との連携を今後ともとっていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症、病気による重度化、終末期については、家族、ホーム、かかりつけ医と連携しながらホームでできるところまでを見極めて介護をしている。	○	現状では、ターミナルの体制がまだできていない。しかし、職員一人一人が介護の知識、技術を高めて入居者の重度化、終末期に向けて対応できるように取り組んでいる。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の入居者のケアについては、「できること、できないこと」について家族と話し合っている。そしてケアプランを立案して家族に説明し、同意を得てチームケアで取り組んでいる。	○	本人、家族の思い、要望を大切にしながら家族とホームで「できること、できないこと」を話し合いながら介護をしている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の要望、同意を得て生活の場所を移り住む時は、十分な情報収集をしたり、情報提供をしてダメージの予防に努めている。	○	今後とも環境の変化によるダメージが最小限にとどめられるように努めていきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴染みの関係づくりの中で慣れすぎてしまっている言葉かけもあるように思われる	○	もう一度言葉掛けや接し方を振り返り気をつけて見直していく
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	働きかけは行なっているが、希望や意思表示のうまく出来ない方に対しては職員の見線で判断している事もある	○	入居者との日々のかかわりの中でその方の思いや希望を把握し、入居者本意の決定ができるように努める
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そうしたい思いはあり、出来ている部分もあるが、職員都合で制限してしまっている面も多くなる	○	全体的な見直しを行なう事で一人一人の希望に添うケアが出来る限り実践していけるように努める
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は近隣に2件あり、ご本人で決められる方には行く時期やどちらに行くか決めていただいている	○	拒否が強かったり、寝たっきりだったり、混乱の強い方々は、訪問散髪して頂いている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の重度化もあり、一緒に準備・片付けをする場面が減っている。介助もある為のんびりとはいかないが食事は一緒に行かない会話をする事で楽しんでいただけるように努めている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の嗜好品を把握し、それぞれのご希望に合わせて提供している	○	個々の提供に努めているが、健康状態も見ながら状況にあわせ、たばこの吸い過ぎや食べ過ぎに注意して行っている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は布パンツ・紙パンツで過ごしていただき、トイレでの排泄を行なう事で失禁を減らす取り組みをしている。また、状態の変化に敏感になり直ぐにオムツに移行することなく事前に失禁を防ぐ取り組みを行なっている		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご希望の時間帯やご本人の気分にあわせ入浴していただくように努めている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日そのときの状態に合わせて、ソファやベッドで休んでいただいている。また、日の当たる時間帯には中庭や廊下の窓際などで日向ぼっこしていただいている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	身体能力の低下に伴い何かをするよりものんびりしていたという方も増えてきているため限られてしまっている面はあるものの、出来る方には出来る部分でその力を活かしていただいている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在2名の方がご自分でお金を持たれている。買い物や出かけた際などにご自分で欲しい物を購入されている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限りご希望に添えるように努めてはいるものの重度化の影響もあり状況によっては希望に添えないときもある	○	出来る限りご本人の希望に合わせて散歩等を実践していきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	散歩・買い物以外の外出願望をもたれている方があまりいないため特に検討はしていないが、箱根などに行く行事などの機会があるときには参加できるように支援している		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望される方には希望時に電話や手紙のやり取りができるようにしている		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に曜日や時間帯の特別な制限はなくいつでも来ていただけるように呼びかけている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない事を前提にケアに取り組んでいるが、内容の正しい理解・把握は不完全である	○	具体的な内容を確認の上、再度把握、理解に努める
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアの意識はしているが、出しまわれる方の介助よりも、フローアに残される利用者への介助が不十分になる恐れが有り、転倒が増えてきている現状を考えると、安全面を優先せざるを得ない状況である。	○	現状では安全面を優先しているが、閉鎖的にならないようにボランティアさんのいらっしゃる日には開錠したり、入居者の活動が室内だけにならないように散歩や買い物に出かける取り組みを継続していく
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はそれぞれの場所で過される事が多いがフローア内で職員の間を分散させながら所在や様子の把握、安全の配慮をしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険防止の為洗剤類・刃物類は目に付かないや手の届かないところで保管しているが、鋏や針など扱える方にはお渡ししたり、石鹼類も生活用品の一部としてしまうことはしていない		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人の内部研修に参加したり、ヒヤリハット、事故報告書を基に原因分析を行い同じ様な事故が起きないように取り組んでいる	○	繰り返し起きている転倒などについては、手探りながらも防ぐための工夫はおこなっている。不十分な点もある為、他の部署とも情報共有をしていく
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	前項同様法人の医務研修への参加が義務化されたことにより、職員の知識、技術は向上している。	○	継続していかなければ忘れて行ってしまうことなので、定期的に振り返りを行なう
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導に基づきホーム全体として消防避難訓練を行なっている	○	入居者の重度化もあり、避難の方法など定期的に確認していく。また地域住民の協力体制についても再度働きかけを行なう
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化や周辺症状の変化によりリスクが考えられる際にはケアプラン作成の段階でご家族に相談しケアの内容を検討している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者と接する際にはスキンシップも兼ねて体に触れることにより体温の変化にも直ぐに気付けるように努めている。また、状態の変化があった際には速やかに管理長に報告し指示を仰いでいる		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認や症状の変化については確認できているが、内容や副作用についてまでの把握まではできていない	○	職員一人一人に薬箋を確認してもらい、名前までは分からなくともその目的や大きな副作用の理解をもらう
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味な入居者に対しては医師から処方されている緩下剤の他、センナ茶やココア、コーヒーまた、トロミ剤に含まれる繊維質などその方に合わせた予防、対応を行なっている	○	薬に頼らず、繊維質の多く含んだ野菜や飲み物を積極的に摂っていきホーム内でもなるべく多く動く事を進めて行く。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯洗浄やご自分で磨ける方にも必要に応じて職員が一部介助して口腔内の清潔保持に努めている		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関しては中々とっていただけない方もいるが工夫しながら必要量を摂取していただいている。食事の量に関してはその方の運動量に合わせて量を盛り付けている		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人の医務研修の中で知識や技術を身につけている。また、感染症発生時にもマニュアルに基づいて行動している	○	H21年1月にノロウイルス発生。事前に研修を行っていたため速やかに対策を講じると共に法人の指示のもと対応し2次感染がなく終息している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日夜勤者による調理器具の消毒を行なっている。また、週3回の買い物と週5回の八百屋の配達により長期保存せず、新鮮なうちに食材を使用している。食中毒や感染症の多い時期には極力生では食べないようにしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	クリニック併設である事もあり敷地内にはオープンで入れるようになっている。玄関周りにも花を置く事で入りやすい工夫をしている	○	クリニックの外来者の車の出入りも頻繁にある為今後も安全には配慮していきたい。また、道路に捨てられたゴミが玄関前まで入ってくることもある為常に気を配り清掃していきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夕刻の西日が直接入ってしまうもののリビングには明るい日差しが入る。照明も明るすぎず暗すぎず、その場所にあわせた色合い、強さになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りが必要な方が増えたため、ソファをリビングに移動したこともあり個人で過ごすスペースが減ったものの、ご自分の時間を持ちたい方は居室に戻られて過されるなど、利用者自身が工夫しながらすごされている		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やテレビなどご自宅で使われていた物を用意していただいている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>適宜・随時、窓を開け空気の入替えを行なっている。リビングには温度計を設置しており冷暖房の温度はこまめに調整をしている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>下肢筋力が低下してきた方も手すりや椅子等に掴まりながら歩かされている。歩行の邪魔になる場所にはできるだけ物を置かず安全に配慮している。適宜リビングの配置も変更している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>基本的には出来てはいるが、どこまで解る力を持っているのかの把握が充分ではない点がある。</p>	○	<p>申し訳ないことではあるが入居者の混乱や失敗から職員も学ばせていただき、入居者お一人お一人のわかる力の範囲を把握すると共に工夫を行ない混乱や失敗を防ぐ取り組みにつなげていきたい</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>居室窓の前にはレンガを敷いている。中庭はボランティアさんが整備してくれた花壇があり見て楽しめるようになっている</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

H20年度法人事業計画の中に職員教育があげられ全職員対象の内部（医務）研修が義務受講として1年間実施している。開設8年目になり入居者の重度化に伴い内部研修に参加して職員の知識、技術のレベルアップが図られている。

研修項目

- ・心肺蘇生、AED、ハイムリック法について
- ・ノロウイルス対策（吐物処理、対策）について
- ・吸引器の取扱、口腔ケアについて
- ・嚥下、摂食方法について
- ・褥瘡と体位交換について
- ・ペースメーカーと心疾患について